

平成25年度

23th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
協賛 富士フイルムイメージングシステムズ(株)、宮城県写真商業組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮 城 県 知 事 賞)	渡り鳥の楽園	三 塚 東	栗原市鶯沢
優 秀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	きょうも元気に	佐 藤 寿 好	登米市東和町
金 賞 (栗 原 市 長 賞)	朝焼けに舞う	小野寺 亨	栗原市瀬峰
金 賞 (登 米 市 長 賞)	獲物はブラックバス	高 橋 利 行	登米市迫町
銀 賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	旅 立 の 朝	佐々木 幹 男	登米市迫町
銀 賞 (登米市観光物産協会会長賞)	歓 喜	小 泉 清 孝	栗原市若柳
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	白 陽 群 舞	伊 藤 浩	大崎市古川
銅 賞 (河北新報社賞)	夕 映 え	阿 部 圭 吾	登米市石越町
銅 賞 (読売新聞東北総局長賞)	群 翔	蛭 田 敏 夫	登米市中田町
銅 賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	朝霧に翔る	佐 藤 崇	仙台市泉区
銅 賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	「白 昼 夢」	遠 藤 武 蔵	仙台市青葉区
入 選	乱 舞	佐々木 茂 生	仙台市泉区
入 選	明けの群舞	渡 邊 興 次	石巻市大街道
入 選	それぞれの旅路	鈴 木 雄 二	岩手県北上市
入 選	群 翔	菱 沼 明 夫	仙台市宮城野区
入 選	貴婦人のシルエット	渡 辺 孝 男	仙台市泉区
入 選	接近！夕照の飛行機雲	遠 藤 一 治	仙台市泉区
入 選	沼の落書き	神 山 日出夫	石巻市中里
入 選	秋マガン大集結	伊 藤 孝 喜	登米市中田町
入 選	煌 め き	千 葉 稔	登米市豊里町

総 評

今年も「伊豆沼・内沼の自然コンテスト」の審査をさせていただき、大変嬉しく思います。今年も、作品全体のレベルが高く、常連の方のレベルも上がり、深い風景作品に仕上がっていました。審査中それがとても嬉しく感じ、楽しく選考させていただくことができました。

伊豆沼・内沼の風景は、豊かな自然だけではなく、生き物達の大切な環境でもあることが、今回入選した作品を見ていただければ、伝わることでしょう。このコンテストを通し、伊豆沼・内沼の自然を多くの方に知って欲しいと思います。それは、この素晴らしい自然環境を実際に感じてもらいたいと思うからです。日本人の原風景がここにはあります。素晴らしい作品を楽しみにしています。

フォトコンテスト審査員 竹 内 敏 信



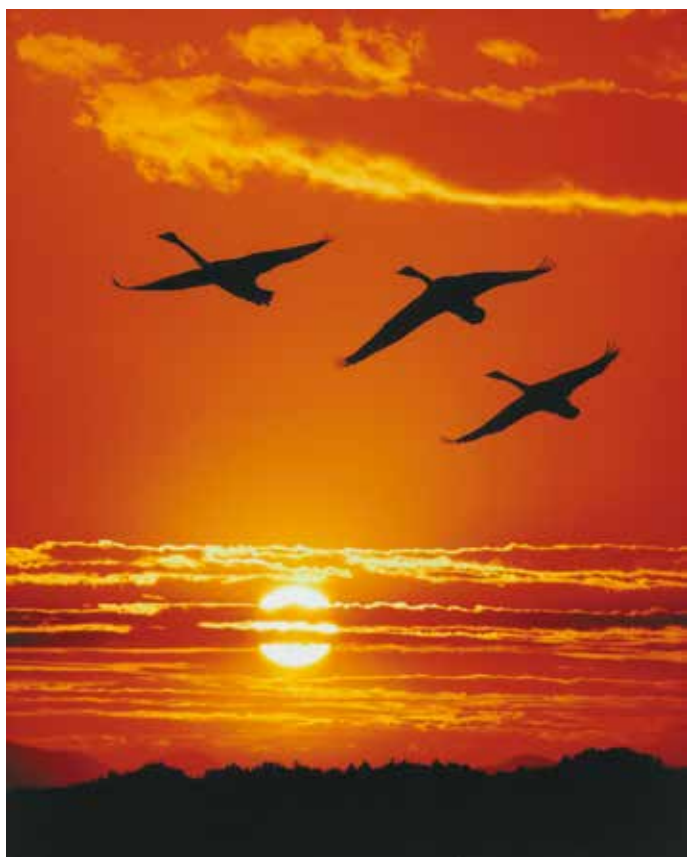
1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。

主な写真集 「花祭」(誠文堂新光社)、「天地」(天地聲聞)「櫻」(出版芸術社)、「天地風韻」(日本芸術出版社)、「雪月花」(トキヨーセブン)。

(社)日本写真家協会会員
日本写真芸術専門学校校長
東京工芸大学講師
現代写真研究所講師



【評】画面いっぱいにマガンが飛び立つところを見事に捉えています。背景を淡く表現し、前景の群生と後方群生もよく捉えています。前景のマガンが、一羽一羽がとてもシャープで、立体的に表現しているのも見事です。撮影技術も素晴らしいのですが、作者のこの伊豆沼の風土を伝えようという気持ちが良く伝わる作品に仕上がっています。



金賞（栗原市長賞）
「朝焼けに舞う」

小野寺 亨

【評】3羽の白鳥を朝日とともに美しく捉えています。とても目を惹く作品表現です。全体の構図も良く、雲、山、背景の霞などバランスも良いです。主役の3羽の白鳥をシルエットで見せることにより、この作品を印象的にしています。背景の雲のグラデーションもとても良いです。見ているととても懐かしくなる作品です。



【評】 前景、背景の枯れたハスをぼかし、中央に複数の白鳥を中心にした構図がとてもおもしろいです。この白鳥達を中央に置くことで、見る人に印象的なイメージをもたせています。光も上手く使っています、朝日が効果的な絵を生み出しています。もう少し工夫してほしかったのは、タイトルが少し他にもあったような気がします。タイトルで写真の善し悪しも変わってきます。作品が良いだけに勿体ないです。

金賞（登米市長賞）「獲物はブラックバス」

高橋 利行



【評】 まさに獲物を捕らえ、飛び立つ瞬間を見事に捉えています。こういう瞬間的写真を撮るのは、簡単ではありません。高橋さんは、前回はより野鳥の瞬間的な作品で入賞していますが、今回はより野鳥の生態にせまった作品に仕上がっています。シャッターチャンスも良く、構図も良いです。魚の腹の付近から血が飛び散っているのもリアリティがあり良いです。とても時間と苦労があると思いますが、これからもこの伊豆沼・内沼の素晴らしい野鳥達を捉えてほしいと思います。

銀賞

(栗原市観光物産協会
会長賞)
「旅立の朝」

佐々木 幹男

【評】 朝日を下部におき、空を大きく見せることにより、マガンの群生をダイナミックに捉えています。マガン1羽1羽がシルエットで見せ、空の色合いも良く、作品全体の美しく表現しています。太陽、鳥、空気を良く写し出している作品に仕上がっています。



銀賞

(登米市観光物産協会
会長賞)
「歓 喜」

小泉 清孝

【評】 毎年御馴染みとなった、レンコン掘り大会の一枚です。この作品を見た時にこの大会を心から楽しんでいる姿を良く捉えているなと感じました。女性の豊かな表情と両手で掘ったレンコンがとても印象的です。モノクロで作品を表現しているのも、泥の質感も伝わってきて良いです。



銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼
サンクチュアリ友の会
会長賞)
「白陽群舞」

伊藤 浩

【評】 望遠レンズを効果的に使い、大胆かつドラマチックに演出しています。朝日に吸い込まれるようにマガンを見せている表現も見事です。この作品からは、マガンの鳴き声、羽音が伝わってきました。マガンの美しい姿の一つを良く捉えています。

銅賞（河北新報社賞）
「夕 映 え」

阿部 圭吾



【評】 飛び立つマガンの群れを大胆に捉えている作品ですが、この作品はそれだけではなく、タイトルのごとく、マガンが夕陽の光を浴びている姿を美しく繊細に表現しています。写真でなければ表現できない瞬間だと思います。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）
「群 翔」

蛭田 敏夫



【評】 マガンの群れが大空に飛び立つ瞬間を良く捉えています。面白いと思ったのは、飛び立つマガンの中に何羽かのマガンが水辺にまだ漂っているのが、少しユニークに感じました。蛭田さんは、良く入選している方です。以前もマガンの作品で最優秀賞になっていますが、その時と今回の作品がタイトル一緒なのが、残念でなりません。ほかの方にも書きましたが、タイトルはとても大事です。作品は良いので、タイトルの工夫もお願いします。



銅賞
（毎日新聞仙台
支局長賞）
「白 昼 夢」

遠藤 武蔵

【評】 上下でイメージの違う作品表現になっています。それぞれにストーリーがあり着眼点は良いです。すこし欲張りな気がします。もう少し構図をシンプルにまとめるとより作者の意図が見ている方に伝わる作品表現になります。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）
「朝霧に翔る」

佐藤 崇



【評】 朝霧を効果的に見せています。左側に枯れハスを置き、背景にマガン達をシルエットで薄く見せ、水墨画のような芸術的な作品に仕上がっています。パノラマで表現しているのも印象的にみせている一つです。全てが上手く表現されている一枚です。

入選「乱 舞」

佐々木茂生



【評】 一斉に飛び上がる姿はまさに圧巻です。マガン達の生き生きとした姿は、この伊豆沼の情景を良く表現した一枚です。マガン達のざわめきも伝わってきます。良いシャッターチャンスで捉えています。

入選「明けの群舞」

渡邊興次



【評】 本太陽を中央から少しずらし、マガンをシルエットで見せる表現方法はとても良いです。赤く染まった空も美しく、太陽を印象的に捉えることに成功しています。マガンのシルエットも空の赤にマッチし、美しい作品に仕上がっています。

入選 「それぞれの旅路」 鈴木雄二



【評】 この作品は伊豆沼の見せる、美しい風景の一つです。風景全体が紅く染まり、空には鳥が舞い、水辺には枯れハスが見え幻想的な写真表現になっています。夏の主役のハスが枯れ、まだ11月頭まで残り、空には冬の主役のマガンが舞っています。季節の移り変わりも捉えた一枚です。

入選 「貴婦人のシルエット」 渡辺孝男



【評】 一羽のサギをとて象徴的かつ美しく捉えています。全体の色のトーンは、黄金色で美しく表現し、水辺にはサギのシルエットが写し出され、まさにタイトル道理の印象を受けました。こういう表現方法は難しいのですが、この作品は成功しています。

入選 「秋マガン大集結」 伊藤孝喜



【評】 一斉に飛び立つ様子を精密に画面中央から上部でまとめています。飛び立つマガン、湖面にいるマガン、上下で清と動の2つの表現を上手く捉えています。背景のハスの葉の緑も美しく写し出され、伊豆沼・内沼の風土感を見事にだした作品になっています。

入選 「群 翔」 菱沼明夫



【評】 白鳥だけではなく、後方にはマガンの群れも一緒に飛ぶ姿も捉えています。多くの野鳥がこの伊豆沼に生きていることが良くわかります。この伊豆沼がいかにも野鳥の楽園になっているのかを表した作品です。構図も上空の白鳥達、水辺の枯れハスがお互い美しく表現しています。

入選 「接近！夕照の飛行機雲」 遠藤一治



【評】 夕闇迫る空に複数の野鳥のシルエットが、背景のブルートーンでより美しく感じます。そこに飛行機雲だけが夕陽の光を浴び、色彩の美しさも伺える作品表現になっています。

入選 「沼の落書き」 神山日出夫



【評】 夏は緑で覆っているハスが、枯れることにより印象的な作品に仕上がっています。水辺が鏡のように写り、上空の雲が見えるのもこの作品の面白さだと思います。よい視点で撮られていると思います。

入選 「煌めき」 千葉 稔



【評】 モノクロトーンで、繊細な光を使い静寂感を表現しています。上部に見える太陽と野鳥の姿も良いですね。これから何かの物語が始まるように見え、とても神秘的に感じます。構図も良いです。